

原子力事業者の緊急時対応に係る訓練  
及び規制の関与のあり方に係る意見交換

資料 1 - 3



# 関西電力における訓練の取組みと課題

「第2回意見交換における宿題事項回答」

2022年 7月 7日  
関西電力株式会社

No.	宿題事項	対象ページ
1	指揮者の判断能力の向上に検討の余地がないか検討して欲しい。	5 6 対策①、⑤にて説明。
2	訓練指標をどのように見直したいのか、案を示して欲しい。	5 6 対策①、②を踏まえ、 10 (再掲) にて説明。
3	訓練を整理するうえで、共通の名称を使用するなど、誤解が生じないように工夫が必要である。保安規定の記載振りや訓練の規模等、軸をもって整理しないと見えないところもあると思う。要素訓練で重複するところがあるといった場合、要素訓練は各社色んな名称を用いているかもしれない。ある程度カテゴライズした上で訓練を整理した後に検討すべき。	資料 1 - 4 にて説明。
4	訓練の統合や効率化を行う上で、何が阻害要因であるか、明確にしていきたい。規制庁側も要件を整理する。(これとこれを一緒に訓練したいが、〇〇が障害となっているなど)	5 6 対策①、②、④を踏まえ、
5	PDCAを回すうえで、規制側が関与していることを整理し、改善して欲しいものがあれば、提案してほしい。	12 (再掲) にて説明。
6	意見交換の目的は、緊急時対応能力の向上を目指すためのあり方検討であるため、力量の現状維持ではなく、より向上させるための提案を行うこと。	- (提案済)
7	今回の資料で九州電力は、訓練目的の区分に「情報共有」を記載されていないため、これで良いのかを検討すること。	- (記載済)
8	防災訓練(総合訓練)をイメージしたものだと思うが、緊急時対応能力向上に向けた具体的な姿が見えないため、次回以降整理し、訓練全体として提示して欲しい。(訓練が多すぎて)時間的に実施する余裕がないかも知れないが、時間的制約を考慮せず、事業者がやりたい訓練を提案して欲しい。	2 のコンセプトに基づき、 8 ~ 11 にて訓練全体を説明。
9	複数年で訓練シナリオを回す場合のメリット・デメリットを整理し、議論したい。	7 にて説明。

## 訓練見直しの趣旨と目的

- 今まで実施してきた訓練の目的を整理し、更なる緊急時対応能力の向上に資する実効性のある訓練を目指す。
- 発電所運営と両立し、継続して実施可能な訓練プログラムを目指す。



上記 2 点の目的と照らし合わせ、次ページ以降で課題や改善策を見直し

## N R A 殿の課題に対する当社の課題（1 / 2）

N R A 殿の課題認識		N R A 殿の課題に対する当社認識、課題	
原子力事業者の訓練	<b>① 偏りのある事故シナリオ</b> ▶ 多様な事故シナリオによる訓練等が全体的に少ない ▶ 核物質防護に関する事案も含め、現在訓練している事故シナリオに限定せず、多様な事故シナリオを用いた訓練を行う必要がある	一部同意	（防災） ▶ 毎年度、シナリオにおいては一定の工夫を行っているものの、防災訓練に対する要求事項である「GEに至る事象」「EAL 発信数」等により、偏りのある事故シナリオになっていることは事実。 ▶ 多様な事故シナリオ（GEに至らない事象等）を実施する必要性についても同意。 ▶ シナリオの偏りを要因とした、具体的な課題を②③で整理。 （SA） ▶ 炉規法に基づく成立性確認訓練においては、SA有効性評価における19シーケンスにおける全ての手順を確認することが可能なものであり、むしろ網羅的に成立性の確認を行っているものと認識。
	<b>② 訓練の重複</b> ▶ 炉規法と原災法の訓練で一部の訓練を重複して実施する非効率なものとなっている可能性がある	一部同意	（防災） ▶ <u>上記要求事項を満足するため、防災訓練で多様なシナリオが実施できず、多様なシナリオ実施のため、新規訓練（I型訓練）を実施しており、非効率な運用。【課題a】</u> （全体） ▶ N R A 殿の指摘事例（炉規法（個別手順訓練）と原災法（防災訓練時の現場訓練）の重複）は、マルファンクション付与の有無など、目的の異なる訓練であり、重複とは考えていない。 ▶ II型訓練と他の現場実動能力向上を目的とした訓練との統合については、検討の余地あり。
	<b>③ 緊急時対応組織の実効性</b> ▶ 多様な部門の要員や交代要員等が参加する訓練実施等による体制の整備・強化が必要 ▶ 指揮者（発電所長やそれを直接的にサポートする職員）の意思決定・対応訓練が質量ともに不足している	同意	（防災） ▶ 交代要員等の育成のため、参加要員に偏りがないよう管理してきたが、シナリオの硬直化・偏りにより、総合的な演習である防災訓練の中で、緊急時対応活動（要員含む）の一部が実施できていなかったのは事実。【課題b】 ▶ <u>防災訓練結果（特にE R C情報共有の配点割合が高い）が採点され、事業者間順位が公表されることで、失敗による気づき・検証を積極的に試す訓練ができていない。【課題c】</u>
	—	—	（防災） ▶ <u>年度下期に3サイトの防災訓練が集中するため、本店対策本部の訓練も集中（3回／6ヶ月）しており、P D C Aに十分な検討時間を確保し難い。【課題d】</u>

N R A 殿の課題認識		N R A 殿の課題に対する当社認識、課題	
規 制 の 関 与	④情報共有重視の訓練評価 ▶ 原子力施設内での事故収束に向けた活動が最も重要であり、この部分（例えば、意思決定及び現場実動）へのより実効的な規制当局のあり方について検討する必要はないか	認識なし	(防災) ▶ 事故収束活動、情報共有に関する訓練の双方とも重要との認識だが、事故収束活動は自社評価、他事業者評価(視察)を実施中であり、規制の関与に係る具体的な懸案は不明。 (SA) ▶ 各現場操作を含めた現場シーケンス訓練等で N R A 殿に確認頂いている。
	⑤「検査」と「評価」による関与 ▶ 原子力規制委員会の関与をより効率的かつ実効あるものとするためには、例えば、1 回の訓練に対し検査と評価を一体的に実施するなどの運用上の工夫の余地がある	同意	(全体) ▶ ②同様、種々の訓練が効率的に実施できているものではなく、工夫の余地があることについては同意。【課題 e】
	⑥訓練への積極的関与 ▶ 訓練の実効性を高めるため、海外の事例も参考に、例えば、検査官が原子力事業者に対して一定の想定を示したうえで訓練開始を宣言して関連部門の指揮者に対して対処方針を確認する、訓練中にマルファンクションを設定するなど、原子力規制委員会が原子力事業者の訓練に積極的に関与することを検討してはどうか	同意	(防災) ▶ 事業者訓練前の面談等で NRA 殿からの要請等に合致した訓練であることは確認しているものの、更なる工夫に関しては同意。【課題 f】 (SA) ▶ <u>成立性確認を実施する訓練は目的とは合致していないが、マルファンクション等の応用的な訓練機会が少ないのも事実であり、成立性確認とは別の範囲で検討する必要がある【課題 h】</u>
	—	—	(SA) ▶ 現場シーケンス訓練、大規模損壊訓練は、N R A 殿の検査ガイドにてチーム検査対象となっており、他電力と重複しないよう日程調整する必要があることから、事業者が訓練計画を柔軟に策定・変更することができない。【課題 g】

## 抽出した課題に対する改善策の検討（1 / 2）

改善策	対応する課題（原因）	
	課題	原因（阻害要因含む）
<b>対策①：防災訓練シナリオの多様化による実効性向上、効率化</b>		
<b>対策①－1：I型訓練と統合による効率化</b> ➤ 防災訓練に対する国の要求事項について、多様なシナリオを許容できるよう変更。【 <b>防災業務計画等命令、訓練評価指標</b> 】 ➤ I型訓練の目的に沿った事故シナリオで防災訓練を行い、これらの訓練を統合。（シナリオは、複数年サイクルで多様化）	課題 a. ➤ 防災訓練とI型訓練を別々に実施することによる非効率な運用。	➤ 防災訓練に対する要求事項として、「GE事象」「EAL発信数」等の要求があるため、これらの要求に合致しないシナリオでの防災訓練を実施できない。
<b>対策①－2：未実施シナリオによる実効性向上</b> ➤ 防災訓練に対する国の要求事項について、多様なシナリオを許容できるよう変更。【 <b>防災業務計画等命令、訓練評価指標</b> 】 ➤ 多様なシナリオ（早い事象、遅い事象、火災、PP）を複数年サイクルで実施する。	課題 b. ➤ 防災訓練（総合的な演習）における一部緊急時対応活動の未実施。	➤ 防災訓練に対する要求事項として、「GE事象」「EAL発信数」等の要求があるため、これらの要求に合致しないシナリオでの防災訓練を実施できない。
<b>対策①－3：失敗による気づきを積極的に試せる訓練による実効性向上</b> ➤ 例えば、ERCとの情報共有に係わる採点結果は、プレイヤーの活動実績の評価結果について、順位付け・公表の対象外とする。【 <b>訓練評価指標に係る運用</b> 】 ➤ シナリオ多様化の1つとして、失敗による気づきを積極的に検証できるような訓練を実施。	課題 c. ➤ 失敗による気づきを積極的に検証できるような訓練を実施できていない。	➤ 防災訓練におけるERCとの状況共有実績は、ERC目線で採点され、事業者間の順位付け結果が公開されることから、事業者として失敗を許されない雰囲気となり、失敗による気づき・検証を積極的に試すことができない。
<b>対策①－4：現場シーケンス訓練連動によるNRA殿の関与の効率化</b> ➤ 防災訓練に対する国の要求事項について、多様なシナリオを許容できるよう変更。【 <b>防災業務計画等命令、訓練評価指標</b> 】 ➤ 複数年毎に、SA現場シーケンス訓練と防災訓練を連動して実施し、1回の訓練で、NRA殿による検査・評価を実施する。	課題 e. ➤ NRA殿の検査・評価を別々の訓練に対して実施していることによる非効率な運用。	➤ SA現場シーケンス訓練と防災訓練を同時に実施できず、各々を別日に実施している。



## 抽出した課題に対する改善策の検討（2 / 2）

改善策	対応する課題（原因）	
	課題	原因（阻害要因含む）
<b>対策②：訓練PDCAサイクルの適正化</b>		
<b>対策②－1：訓練評価指標の更新時期の前倒し</b> ➢ 訓練評価指標の更新（＝訓練報告会）について、年度の第1四半期を目途に実施する。（実施可否を含め相談要）【訓練評価指標に係る運用】 ➢ 第2四半期～年度末までの9ヶ月の期間において、当社3発電所の防災訓練実施日を設定し、本店活動（年3回）に対するPDCA検討期間を確保する。	課題 d ➢ 本店対策本部の活動について、PDCAサイクルに十分な検討時間を確保し難い。	➢ 防災訓練は、訓練報告会后（当該年度の訓練評価指標の制定後）より実施しているが、近年では、訓練報告会を8月に実施していることから、防災訓練の開始が9月以降となり、下期に本店対策本部の訓練が集中する。（3回／6ヶ月）
<b>対策②－2：訓練指標11の運用明確化等</b> ➢ 訓練指標11について、事業者自身によるPDCAサイクルの設定が許容されることの運用を明確化する。【訓練評価指標】 例) 本店の活動は、訓練毎でなく年度毎の評価を可能とし、年度内の訓練で同じ課題が抽出された場合でも指標11の減点対象とはしない。 ➢ 中長期的には、対策①等の進捗状況を踏まえ、事業者の自主的なPDCAが推進できるよう、訓練指標の柔軟な取り扱い（事業者による設定、変更、年度毎の指標除外等）を可能としたい。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">10</div> </div>		➢ 訓練評価指標11（訓練評価の自己評価、分析）を踏まえ、本店対策本部の活動（ERC連携含む）で、同じ原因による課題が継続した場合、本指標で減点される可能性があるため、本店対策本部の活動のPDCAサイクルは原則訓練毎（3回／年）で実施している。
<b>対策③：検査官による訓練への関与充実</b> ➢ 検査官による防災訓練への積極的関与を実施。（実施方法については、訓練の目的・進行に悪影響を与えないよう検討要。）	課題 f . ➢ 規制による訓練関与に関する更なる工夫。	—
<b>対策④：現場シーケンス訓練、大規模損壊訓練計画の柔軟な策定・変更</b> ➢ NRA殿の検査ガイドにてチーム検査対象となっている現場シーケンス訓練・大規模損壊訓練について、例えば、再稼動から毎年、問題なく合格しているプラントについては、事業者が訓練結果を公開の訓練報告会等でNRA殿に報告することでNRA殿の立会を不要としたり、チーム検査ではなく日常検査で対応頂くことで、事業者による柔軟な訓練計画の策定・変更が可能となる。【基本検査運用ガイド】	課題 g . ➢ 現場シーケンス訓練、大規模損壊訓練計画を事業者が柔軟に策定・変更できない。	➢ 現場シーケンス訓練、大規模損壊訓練はNRA殿の検査ガイドにてチーム検査対象となっていることから、他電力と重複しないよう日程調整する必要がある。
<b>対策⑤：マルファンクション等による応用的な訓練の試行</b> ➢ 本部要員を対象として、マルファンクション等による応用的訓練を、SA訓練のスキームを活用する形で試行し、実効性を検証する。	課題 h . ➢ マルファンクション等を伴う応用的な訓練の機会が少ない。	—

改善策	メリット・デメリット
<p><b>対策①：防災訓練シナリオの多様化による実効性向上、効率化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 対策①－1：I型訓練と統合による効率化</li> <li>➤ 対策①－2：未実施シナリオによる実効性向上</li> <li>➤ 対策①－3：失敗による気づきを積極的に試せる訓練による実効性向上</li> <li>➤ 対策①－4：現場シーケンス訓練連動によるNRA殿の関与の効率化</li> </ul>	<p><b>【メリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 総合的な訓練体制において、戦略、リソース検討等に重点を置いた訓練や未実施シナリオへの対応活動を行うことで、実効性向上が図れる。</li> <li>➤ 重複している訓練を統合することにより、効率的に訓練スケジュールを計画することができる。</li> <li>➤ 防災訓練とSAシーケンス訓練を同時実施することにより、効率的に訓練スケジュールを計画することができる。</li> </ul> <p><b>【デメリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ERCとの情報共有の検証に適さないシナリオでの実施が増え、ERC目線での適切な評価を得られる機会が減る。 → <u>当社のサイト数を踏まえたERC連携訓練回数や、多方面からのピアレビューを検討することにより、評価の補強が可能と考える。</u></li> </ul>
<p><b>対策②：訓練PDCAサイクルの適正化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 対策②－1：訓練評価指標の更新時期の前倒し</li> <li>➤ 対策②－2：訓練指標11の運用明確化等</li> </ul>	<p><b>【メリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 課題抽出・分析・改善に適切な時間が確保でき、検討の深掘りができる。</li> </ul>
<p><b>対策③：検査官による訓練への関与充実</b></p>	<p><b>【メリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 事業者だけに限らず、多方面の視点から訓練を見ることができる。</li> </ul> <p><b>【デメリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 関与の規模によっては訓練の目的から外れるリスク。</li> </ul>
<p><b>対策④：現場シーケンス訓練、大規模損壊訓練計画の柔軟な策定・変更</b></p>	<p><b>【メリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 現場シーケンス訓練、大規模損壊訓練のスケジュールを計画しやすくなる。</li> </ul> <p><b>【デメリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ NRA殿本庁の確認範囲が小さくなる。 → <u>訓練報告会等に報告することにより、確認が可能と考える。</u></li> </ul>
<p><b>対策⑤：マルファンクション等による応用的な訓練の試行</b></p>	<p><b>【メリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 指揮者等へのマルファンクションへの臨機の対応を検討・判断の訓練機会が増え、臨機な対応能力の全体的な底上げが期待できる。</li> </ul> <p><b>【デメリット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 新規訓練の規模・回数次第では、他の発電所運営へのリソースへの悪影響リスク。</li> </ul>



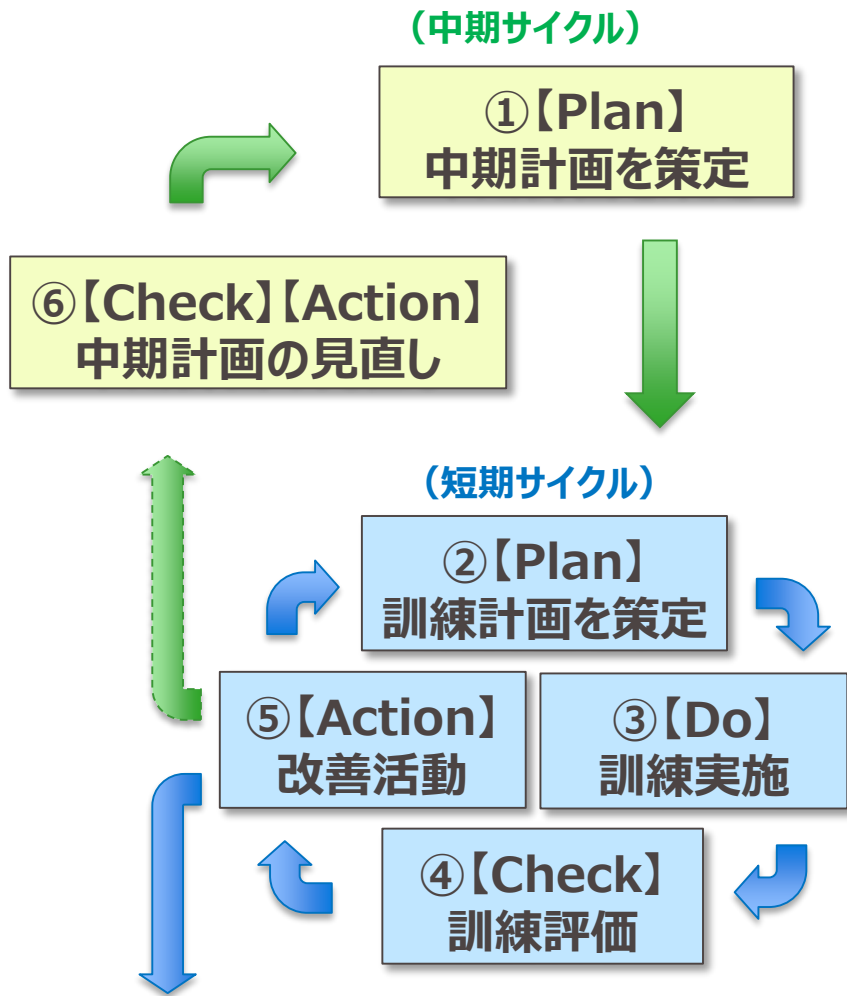
# 訓練全体における具体的な改善策のイメージ

	項目	改善策	評価※1	目的と効果
1 年 目	原災法 防災訓練	<b>防災訓練(進展の早い事象シナリオ：過圧破損シーケンス)※2</b> ⇔SA現場シーケンス訓練と連動・同時実施 * 防災訓練については初動3～4時間のみとし、それ以降は現場シーケンス訓練として継続してホールドポイントを評価	事業者間 相互評価 <b>ピアレビュー方法や指標を見直したうえで試行を行う</b>  <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">9</div> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">10</div>	<b>【目的】</b> ▶ 防災訓練とSAシーケンス訓練を同時に実施することにより、「最小人数」、「早い事象」での対外情報連携までを含めて実施し、実効性を検証し、課題を抽出する。 <b>【効果】</b> ▶ 新たな課題を抽出し、改善を図ることで、緊急時対応能力の向上に資する。 ▶ NRAによる検査と評価を同一日に実施できる。
	炉規法 SA訓練	<b>成立性確認とは別に机上訓練等の様式を活用したマルファンクション付与の試行を検討</b>  <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">11</div>	自社評価	<b>【目的】</b> ▶ 臨機の対応に係る検討・判断の訓練機会を増やす。 ▶ 現場調整者等の本部要員に対し、マルファンクションを付与することにより、臨機の対応力向上を図る。 <b>【効果】</b> ▶ マルファンクション経験により、SA要員の臨機対応力の全体的な底上げが期待できる。
2 年 目	原災法 防災訓練	<b>防災訓練（情報連携重視）【従前どおり】※2</b>	NRA殿評価	<b>【目的】</b> ▶ ERCとの情報連携に重視を置いた総合的な訓練を行い、実効性の検証し、課題を抽出する。 <b>【効果】</b> ▶ 情報連携の能力に関して、受信側であるERCからの評価が得られ、適切な課題抽出ができる。
	炉規法SA訓練	<b>マルファンクション付与の試行結果に応じて検討</b>	自社評価	—
3 年 目	原災法 防災訓練	<b>防災訓練（多様化シナリオ）</b> シナリオ例) 指揮者の判断能力向上のためのシナリオ（I型訓練との統合）、現場実動連動（II型訓練との統合）、PP事案、失敗等による気付き検証、オフサイトを重視した訓練・・・	自社評価	<b>【目的】</b> ▶ 未経験または頻度の少ないシナリオ・訓練スコープで総合的な訓練を行うことで、実効性を検証し、課題を抽出する。 <b>【効果】</b> ▶ 新たな課題を抽出し、改善を図ることで、緊急時対応能力の向上に資する。
	炉規法SA訓練	<b>マルファンクション付与の試行結果に応じて検討</b>	自社評価	—
4 年 目	原災法 防災訓練	<b>防災訓練（多様化シナリオ）</b>	事業者間 相互評価	—
	炉規法SA訓練	<b>マルファンクション付与の試行結果に応じて検討</b>	自社評価	—
	○年目	(訓練サイクル期間については、継続検討)		

※1：訓練結果については、従前どおり、訓練報告会にて報告。NRA殿の評価頻度については、NRA殿のニーズを踏まえて継続検討。また、本店対策本部の活動に対するPDCAサイクルは、年度毎を基本とする。

※2：検査官による訓練への積極的関与を実施するが、実施方法については、訓練の目的・進行に悪影響を与えないよう検討要。

例) ①現地検査官によるロールプレイング（ROPで実施している検査官の振る舞いを実施など） ②現地検査官から交代要員（訓練プレイヤー以外）に対して戦略等のQAを実施。



○ 訓練報告書の提出

本訓練PDCAサイクルについては、NRA  
面談、訓練報告会にて報告する。

項目	活動内容
Plan	①中期計画を策定(中期サイクル) ・中期のあるべき姿を設定。 ・複数年サイクルの重点目標、 <b>主要シナリオ、評価方針(社外評価(ピアレビュー含む)等)</b> を設定。 ②訓練計画を策定 ・中期計画、課題改善策に沿った訓練目的・目標を具体化。 ・訓練目標を検証可能な訓練内容(実動範囲)、評価項目を具体化。
Do	③訓練実施
Check	④訓練評価 ・社内評価、 <b>社外評価</b> により、「緊急時対応の能力(体制、ツール含む)」、「 <b>訓練方式の妥当性</b> 」を評価するとともに、良好事例、課題等を抽出する。
Action	⑤改善活動 ・課題の原因分析を行い、対策を実施。 ・教育訓練等により、改善策の定着を図る。 ⑥中期計画の見直し(中期サイクル) ・あるべき姿への達成状況、重点目標への達成状況を評価。 ・その他緊急時対応に係る情報を評価。 ・次サイクルの中期計画の見直しを実施。

**赤字：充実、新規追加を行う訓練プロセス**

短期  
見直し現状の課題・対策に必要な  
評価指標の見直し中長期  
見直し

## 事業者の自主的なPDCAの推進

## ○対策② - 2

訓練指標 1 1 について、事業者自身によるPDCAサイクルの設定が許容されることの運用を明確化する。

例) 本店の活動は、訓練毎でなく年度毎の評価を可能とし、年度内の訓練で同じ課題が抽出された場合でも指標 1 1 の減点対象とはしない。

## ○対策① - 3

プレイヤーの活動実績を採点する  
指標 2 (ERCとの情報共有)  
指標 3 (情報共有ツール活用)  
指標 4 (通報等)

は、失敗による気づき・検証を得るような訓練を行えるよう、評価結果を事業者間の順位付け・公表の対象外とする。

○防災訓練のPDCAの活動に対して、現状NRAにて評価指標を定めているが、事業者による自主的な改善を推進しやすいように、事業者自身で一部評価指標の設定・見直し・除外等を行いたい。

(イメージ)

分類	評価指標(現行)
Plan	(1) 情報共有フローを活用した訓練計画 (5) 前回課題を踏まえた訓練計画 (6) シナリオの多様化・難度
Do	(2) ERCとの情報共有結果 (3) 情報共有ツールの活用結果 (4) 通報連絡の実施結果 (7) 現場実動訓練の有無 (8) 広報活動訓練の有無 (9) 後方支援活動訓練の有無
Check	(11) 訓練結果の自己評価・分析
Action	(10) 訓練視察実績

○事業者がある目的を持って訓練を実施しても、現行の訓練指標に馴染まない場合は、適切に評価されないリスク。

(例えば)

・情報の錯綜、指揮者の臨機の判断を試すシナリオで実施した結果、ERC目線での連情報不足。

・複数年サイクルで特定の活動を重点実施した結果、当該年度における指標対象の訓練項目の不足。

## 試行の趣旨

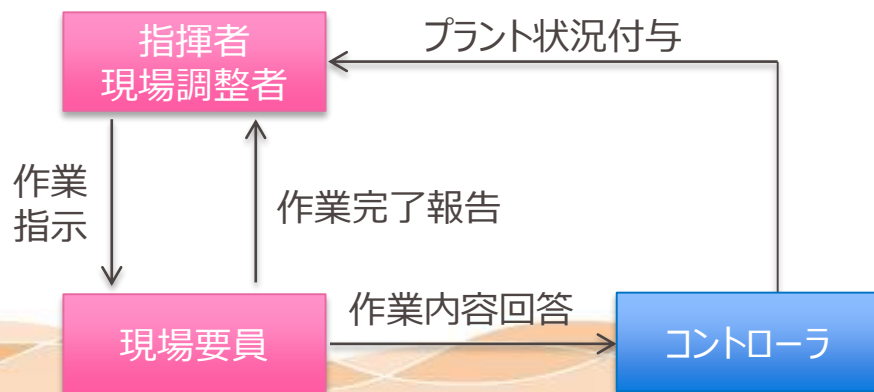
- SA訓練では有効性評価における成立性確認や、力量維持向上の訓練を実施しているが、更なる対応能力の向上として、**成立性確認訓練とは別にSA訓練のスキームを活用してマルファンクションを付与する訓練**ができると考えている
- しかし、マルファンクションに対する効果が未知数であるため、**様々なマルファンクションの入れ方を試行して、どのやり方が効果的で実効性向上に資するものになるか模索する**必要がある

## 活用する訓練スキーム

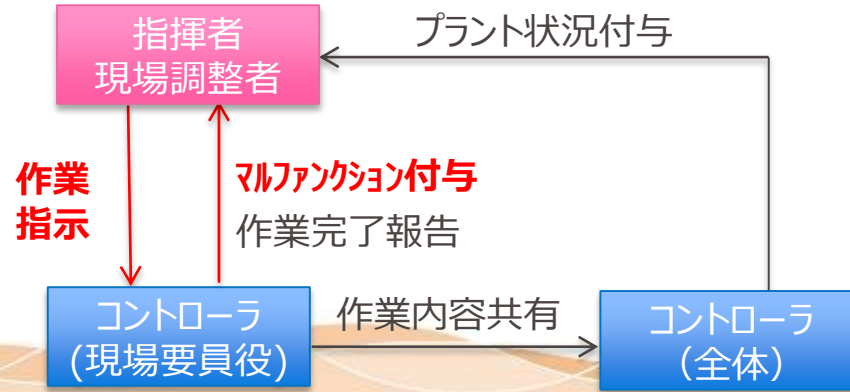
- 上述のとおり、様々なマルファンクションの入れ方を試行したいため、**扱うシーケンスが多様かつ実施回数(訓練機会)が多い机上訓練**での試行が適していると考えている。
- 机上訓練では本部要員（現場調整者）と現場要員の連携の上で行われるが、試行では臨機な対応が求められる本部要員（現場調整者）への条件付与を中心に行って進めていくことができると考えている

## 【机上訓練と試行のイメージ】

### ○机上訓練



### ○試行



## ○改善策の阻害要因（5 6 から再掲）

- 防災訓練に対する要求事項として、「GE事象」「EAL発信数」等の要求があるため、これらの要求に合致しないシナリオでの防災訓練を実施できない。【**防災業務計画等命令、訓練評価指標**】
- 防災訓練におけるERCとの状況共有実績は、ERC目線で採点され、事業者間の順位付け結果が公開されることから、事業者として失敗を許されない雰囲気となり、失敗による気づき・検証を積極的に試すことができない。【**訓練評価指標の運用**】
- 防災訓練は、訓練報告会后（当該年度の訓練評価指標の制定後）より実施しているが、近年では、訓練報告会を8月に実施していることから、防災訓練の開始が9月以降となり、下期に本店対策本部の訓練が集中する。（3回／6ヶ月）【**訓練評価指標の運用**】
- 訓練評価指標11（訓練評価の自己評価、分析）を踏まえ、本店対策本部の活動（ERC連携含む）で、同じ原因による課題が継続した場合、本指標で減点される可能性があるため、本店対策本部の活動のPDCAサイクルは原則訓練毎（3回／年）で実施している。【**訓練評価指標**】
- 現場シーケンス訓練、大規模損壊訓練はNRA殿の検査ガイドにてチーム検査対象となっていることから、他電力と重複しないよう日程調整する必要がある。【**基本検査運用ガイド**】



## NRAへの提案事項

- 防災業務計画等命令<sup>注)</sup>に規定する、防災訓練の想定に関する見直し
- 防災訓練における訓練評価指標・運用の見直し
- 基本検査運用ガイド 重大事故等対応要員の訓練評価(BE0070)、重大事故等対応訓練のシナリオ評価(BE0080)の見直し

注)原子力災害対策特別措置法に基づき原子力事業者が作成すべき原子力事業者防災業務計画等に関する命令